

## 事業の背景・目的

（公財）花と緑の銀行が管理運営する富山県中央植物園は多くの絶滅危惧植物の生息域外保全に取り組んでいる。本事業で対象種とした暖温帯・亜熱帯地域原産で当園保有株のヤドリコケモモ、タイヨウフウトウカズラ、ヒメタニワタリ、アマミデンダ、クロボウモドキ、フクエジマカンアオイの6種についても生息域外保全推進のため増殖を図るとともに、冬季の屋外栽培試験により耐寒性を調べ、加温施設のない地域での生息域外保全の可能性を探る。また、長期的な保全を実現するため、種子や胞子での長期低温保存方法の確立を目指す他、フクエジマカンアオイについて自生地の結実状況調査および危険分散を検討し、生息域内外での保全を推進する。

## 事業の内容

ア 増殖・保存および屋外栽培試験事業  
・本事業対象種6種について種子・胞子の播種、挿し木、接ぎ木、不定芽による増殖方法を調査し、得られた余剰株を用いて耐寒性栽培試験を実施した。

イ 種子・胞子の低温保存と発芽試験事業  
・温室で栽培するヤドリコケモモ、タイヨウフウトウカズラ、フクエジマカンアオイの種子およびヒメタニワタリの胞子を採集して低温保存し、発芽試験を実施した。



胞子の発芽状況観察

ウ 危険分散事業  
・保有するフクエジマカンアオイの危険分散を図るため、系統別に管理できる植物園への譲渡を検討した。

エ 自生地での結実調査事業  
・フクエジマカンアオイ自生地の現況調査と個体ごとの結実状況を調査した。自生地付近で新たな生育地の踏査を実施した。

## 得られた成果

- ・ヤドリコケモモを種子繁殖により増殖した。
- ・ヒメタニワタリの胞子播種により前葉体から胞子体を得た。
- ・ヤドリコケモモ、タイヨウフウトウカズラの種子、ヒメタニワタリの胞子を採集し、冷蔵及び冷凍保存した。
- ・冷蔵保存、冷凍保存していたヤドリコケモモの種子とヒメタニワタリ胞子について発芽試験したところ、長期低温保存が期待できることが分かった。
- ・ヒメタニワタリの耐寒性栽培試験により、冬季には葉が枯れるものの、一冬であれば枯死することなく栽培できることが分かった。
- ・フクエジマカンアオイの自然集団での結実が確認された。



挿し木増殖したタイヨウフウトウカズラ



不定芽で増殖したアマミデンダ